埼玉県特集

# 埼玉県内金融機関 2014年度はこう動く

## 埼玉りそな銀行

### 海外ビジネスを支援

埼玉りそな銀行本店ビル

4月1日付で池田一義社長体制がスタートした埼玉りそな銀行。「地域金融機関として地元埼玉とともに発展する銀行」を軸にして他行との差別化、スピード、リレーションの三つの施策を具体化する最初の年となる。

重要なのは「提案力や機能、待ち時間を減らすなどのサービス面で、他の銀行とは違う、とお客さまに思っていただく『真実』の瞬間を感じてもらい、選ばれる銀行になる」（池田社長）こと。

企業向け施策では4月に埼玉県と「県内企業の海外ビジネス支援に関する業務協力協定」を締結。「アジアの成長を取り込むよう県内企業の新しい投資を後押しする」（池田社長）。個人向けは相続や資産承継の分野も取り込めるよう高齢者に優しい銀行を目指す。女性の活用も積極的で支店長クラスは現在6人いる。副支店長級の役職者も増え、人材が育ってきている。

## 武蔵野銀行

### 県と連携し新産業創出

「ほけんの窓口」店頭

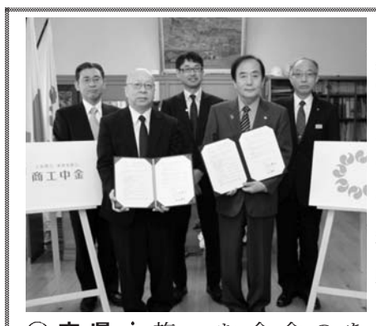
今年度は3年計画である中期経営計画「MVP1／3」の2年目にあたり、「計画の完遂に向けた重要な一年」と加藤喜久雄頭取は強調する。

今年度は、昨年立ち上げた「地域価値創造」（埼玉に新たな価値を創造する）の活動を一段と推進する。具体的には昨年10月に締結した埼玉県との「包括的連携協定」に基づき、地元埼玉の活性化に向け県とスクラムを組み、地域資源を発掘し、新たな産業やビジネスモデルの創出に取り組む。

行内の情報を集約・一元化し、ビジネスマッチングなど顧客ニーズに応えられる体制を整備、定着化させる。100カ店体制へ向け、県内空白地域や東京都との県境地域への出店や昨年、初めて開設した「保険プラザ」のような休日営業拠点を拡充する。「長期ビジョン」に掲げた「埼玉に新たな価値を創造する地域No.1銀行」を目指し、全行一丸となり努力する。

## 商工組合中央金庫さいたま支店

### 県内産業の育成に力


県内企業のアセアンビジネス支援に関する業務協定締結式（4月11日県庁）

商工中金さいたま支店の2014年のテーマは、引き続き成長と再生支援の強化に取り組むとともに、県内産業の育成に力を入れること。さいたま支店の今西隆夫支店長は「設備資金需要も活発化すると思う。全支店上げて全力で取り組む」と話す。

上田清司埼玉県知事の重点施策を受けて県とアセアンビジネス支援の業務協力を締結。県内企業の海外展開のためのバックアップも実施する。航空機産業などの次世代産業の育成も重要課題で、県の産業労働部や地域団体、地元銀行と共に手を携えて地域活性化を支援する。「埼玉はメーカーが多い。景気の流れを止めてはいけない」という思いが第一にある。

若手社員の育成も強化中だ。計算書だけを見るのではなく「経営者に会い、現場の工場などを見て、人と向き合うことを大事にすること」を常に心がけ行動するよう教育している。

## 青木信用金庫

### 企業を育てて共存共栄

今泉　裕理事長

青木信用金庫は今年、地域振興担当部長職を新設した。県が進める地域振興策や補助金を顧客が利用しやすいようアドバイスするのがその役割だ。今泉裕理事長は「企業を育てることで地元も栄えて共存共栄したい」との強い思いを持つ。

2020年の東京オリンピック効果が埼玉県川口市に及ぼす経済効果については「追い風だ。今後、インフラ整備も進み、植木業関係や鋳物関係も活性化するはず」と地元経済への波及効果に大いに期待を寄せる。

「あおしんビジネスクラブ」会員数は現在486先。著名人講師による経済講演会や税理士を招いた新春経済セミナーを年1回ずつ開き、会員同士の交流も深めている。昨年から実施した「新現役交流会」ではのべ47社、173人の新現役が参加し、29社の支援が成立した。今年も11月に実施する予定。

## 川口信用金庫

### 90周年迎え機能を強化

かわしん本店営業部の全景（移転営業中）

3月1日に90周年を迎えた川口信用金庫。3カ年計画「かわしんクオリティアップ90」の最終年度の今年、地域産業支援課内に企業支援室を設置。コンサルタント機能を強化し地域密着型の経営支援を推進中だ。日下義章理事長は「地元金融機関として地元経済の発展に誠心誠意努力する」と決意を新たにする。

昨年9月に初実施した「新現役交流会」は27社が大企業OBである新現役120人と交流したことで9社がマッチングに成功。販路拡大や社員教育などの分野で効果が出始めている。産学連携も充実し、日本工業大学の寄付講座も今年で4回目を迎えた。

90周年記念として寄付金も増額する計画で今年は13市1町に医療機関も含め通常比2倍の総額1300万円を予定。非金融面からも地域貢献する構えだ。現在、建て替え中の新本店は2016年夏をめどに完成する。

## 埼玉縣信用金庫

### 地域密着型 役割果たす

埼玉縣信用金庫本店（埼玉県熊谷市）

埼玉縣信用金庫の2014年度は引き続き、地域密着型金庫としての持てる能力を発揮することがテーマだ。とくにこのほどスタートしたミュージックセキュリティーズ（東京都千代田区）と共に進める「クラウドファンディング」と「さいしん創業サポートデスク」の2事業に注力する。現在、顧客の「課題把握シート」（4534シート作成）に基づき、解決策を体系的にまとめた行動プラン「アクション50」を粛々と進めている。13年度から始めた「経営改善支援センター」事業は県全体で77件あった受け付け案件中、半数近い31件を受けている。動産担保融資（ABL）についても「この2年間でのべ25件の実績がある」（経営企画部）。

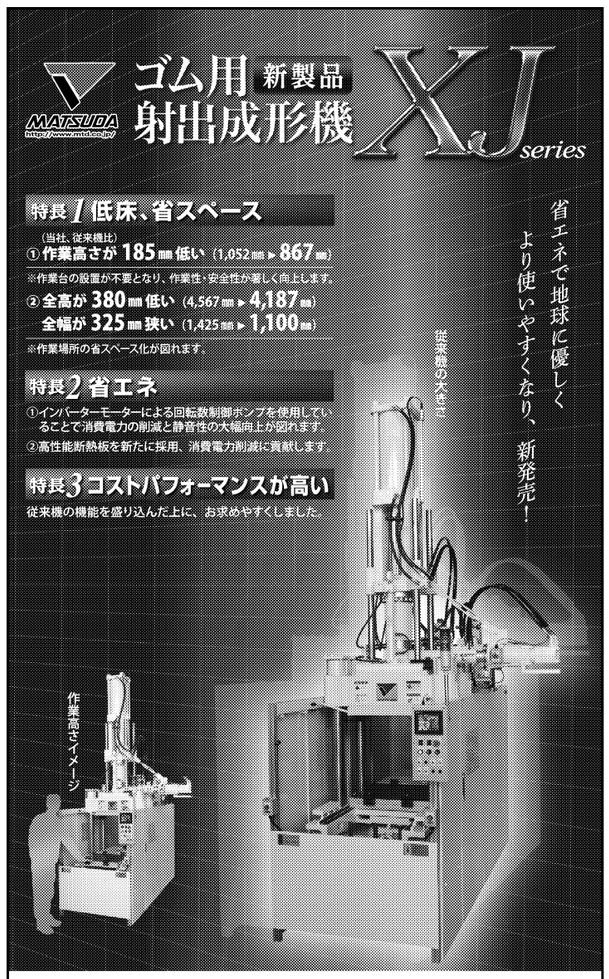
従来は融資できなかったところに融資できるようにするのが「地域密着型金庫の使命」（経営企画部）と、真摯に県内事業者を支援する構えだ。

## 日本政策金融公庫さいたま支店

### 次世代産業へ参入支援

（左から）今村さん、石川支店長、丸山さん

日本政策金融公庫さいたま支店の2014年度は、国民生活、農林水産、中小企業の3事業で「日本公庫の総合力を発揮し、地域に根ざした取り組みを強化する」（石川佳孝支店長兼中小企業事業統轄）ことがテーマだ。

具体的には埼玉県が推進する「次世代産業参入支援事業」を県と連携を密にして支援する。航空機・医療など新しい分野に挑戦する企業にも制度融資を活用して積極的に支援する。「埼玉には大きな可能性がある。県や商工会議所、商工会、民間金融機関と連携しながら埼玉県の発展を後押しする」（石川支店長）。

全国規模で支店展開する強みを生かし、各展示会などでの企業マッチングや販路開拓で貢献する計画。創業・ソーシャルビジネスへの支援と先般、大雪被害にあった農家の復興支援にも県内5支店でしっかり取り組む構え。